

東日本大震災現地NPO応援基金[特定助成]  
東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト

## 第 11 回選考結果のご報告

2016 年 3 月

特定非営利活動法人 日本 NPO センター

## 目次

1.第 11 回助成対象事業一覧 .....	1
2.第 11 回助成選考総評.....	2
3.第 11 回助成概要と選考理由.....	4
4. 第 11 回助成応募概況 .....	9
5. 助成対象事業一覧(第1回～第11回) .....	13

## 1.第 11 回助成対象事業一覧

助成件数:9 件 助成総額: 3,396 万円

助成番号	事業名	団体名	所在地	助成額
11-1	東日本大震災の内陸避難者を支える活動	いわてゆいっこ花巻	岩手県 花巻市	300 万円
11-2	食の循環を通して心と体を元気にする地域支え合いプロジェクト	一般社団法人 ワタママスマイル	宮城県 石巻市	425 万円
11-3	NPO・市民活動団体の活性化と協働推進のための情報発信事業	特定非営利活動法人 いしのまき NPO センター	宮城県 石巻市	300 万円
11-4	復興公営住宅相互と NPO の連携による新たな共助(well-being)の体制づくり	あすと長町コミュニティ構築を考える会	宮城県 仙台市	488 万円
11-5	住むことを禁じられた海辺のまちの縁側づくり	荒浜再生を願う会	宮城県 仙台市	324 万円
11-6	避難からの“次の暮らし”をつなぐ・支える応援プロジェクト	特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ	福島県 福島市	450 万円
11-7	震災によって避難生活を送る子どもたちを支えるための教育・福祉支援とコミュニティづくり	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま	福島県 郡山市	434 万円
11(継)-1	民間公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業	特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会	宮城県 石巻市	290 万円
11(継)-2	帰村モデルとしての川内村地域再生事業	特定非営利活動法人 元気になろう福島	福島県 福島市	385 万円
<p>*第 11 回助成は 2016 年 1 月 4 日から 1 月 18 日までの応募について 1 月、2 月、3 月に選考し助成が決定した。          *助成期間は 2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までの 1 年間。          *雄勝まちづくり協会、元気になろう福島は第 7 回助成対象団体で何れも継続して助成することとなった。</p>				

## 2.第 11 回助成選考総評

選考委員長 大橋 正明

### [JT NPO 応援プロジェクト概要]

「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」は、特定非営利活動法人日本 NPO センターが 2011 年 3 月から行っている「東日本大震災現地 NPO 応援基金」に対して、日本たばこ産業株式会社から寄付を受け、「特定助成」として 2013 年 8 月から実施している助成プログラムである。2 年間で 10 回の助成を行い、57 のプロジェクトに計 2 億 3 千万円を超える助成を行ってきた。

### [応募状況]

第 11 回助成(助成期間 2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)は、2015 年 11 月より告知を開始、応募受付期間は 2016 年 1 月 4 日～1 月 18 日であった。

新規助成の応募は 51 件、応募事業の活動地域は、これまでと同様に宮城県が最も多かったが、岩手県が全体の約 3 割を占めたことが特徴だった。また、過去 1 年間に JT NPO 応援プロジェクトに応募したことがある団体は全体の約 4 割を占めた。

継続助成の応募は、応募資格がある 9 団体のうち 4 団体から応募があった。この内、継続 2 年目への応募が 2 団体、継続 3 年目への応募が 2 団体であった。

### [選考プロセス]

新規助成の選考は、これまでと同様にまず事務局による予備審査で応募要件等に基づいて審議し、本審査の対象として 22 件を選出した。本審査では選考委員が選考基準に基づいて事前に書面評価を行ったうえで、5 名の委員が全員参加する選考委員会で活発に意見を交わし、助成候補 7 件を選出した。その後、事務局スタッフが 7 団体を現地訪問し、活動の状況や選考委員会で挙げられた点について詳細なヒアリングを行った。選考委員長はヒアリングの結果を加味して助成対象と金額を検討し、最終的に助成対象 7 件、助成総額 2,721 万円を決定した。

継続助成の選考は、前回の助成事業の取り組みと今回の応募内容について、各選考委員が選考基準に基づいて書面評価を行ったうえで、選考委員会で助成候補 2 件を選出した。その後、事務局スタッフが現地ヒアリングを行い、選考委員長の決裁を経て、助成対象 2 件、助成総額 675 万円を決定した。

新規助成と継続助成を合わせた助成件数は 9 件、助成総額は 3,396 万円となった。

### [応募内容の全体的な特徴と選考のポイント]

今回の応募内容から窺える全体的な特徴は以下の 3 点が挙げられる。

- (1) 被災者が抱える課題はより個別化・深刻化している。
- (2) 国・自治体の取り組みは被災者の多様な課題に充分に対応できていない。
- (3) (1) (2) を踏まえて NPO は従来の活動の修正や新たな展開を模索している。

審議では、まず被災者の状況について応募団体がどのような問題意識をもっているか、応募内容はその問題意識に基づいて企画しているかについて議論を行い、団体のミッションや活動実績に基づいてこれらの点が明確に説明されている応募事業は高く評価された。

次に、応募事業の目標と企画内容について議論を行った。本助成のテーマである「コミュニティの再生」に合致している、被災者が抱える問題やニーズを反映している、課題の解決につながる独創的なアイデアが盛り込まれている応募事業は高く評価された。一方で、これらの点について説明が十分に頂けなかった応募事業は厳しい評価となった。

最後に、応募事業の継続性や今後の展望については、多くが助成金や補助金による収入で運営されており、展望も模索段階であることを確認した。最終的には、問題意識、企画内容、これまでの活動実績を総合的に判断して期待が持てる応募事業を高い評価とした。

被災者のみならず応募団体自身も目まぐるしい変化にさらされている中で、中長期的な展望をもち、安定的な財源を確保していくことは大変困難であるが、被災者に寄り添った活動を継続していくために、団体の使命や目的の共有を行い、今後の展望を団体内で議論することや、賛同者や支援者を増やすための情報発信や仕組みづくりなどにも取り組まれることを期待する。

最終的に助成が決定した9つの事業は、被災者が抱える問題やニーズに対して、当事者と支援者のコミュニティをサポートする、あるいは、新たなコミュニティやコミュニティ再生の基盤や仕組みをつくることでその解決を目指している。

内陸部へ避難した人たちに寄り添い・支えるコミュニティづくり、震災により住む場所を分断された人たちを支え合うコミュニティづくり、地域コミュニティの復興に取り組む新たな基盤づくり、復興公営住宅での新たなコミュニティづくり、独自の地域文化やコミュニティを再生するための取り組み、避難から次の暮らしへとつなぎ・支えるコミュニティづくり、避難生活を送る子どもたちを支えるコミュニティづくりなど様々である。

9つの事業はそれぞれに明確な問題意識と企画内容を持っており、被災者に寄り添い、支える取り組みとして期待できる。

2016年3月で震災から5年が経過し、「地域の人々と共に取り組む、コミュニティの復興・再生・活性化」を目指す取り組みは転機を迎えている。被災者の声に耳を傾け、地域の変化に気づき、真っ先に課題に取り組んでいくNPOならではの取り組みが実施されることを願う。

### 【選考委員】

委員長 大橋 正明 特定非営利活動法人 日本NPOセンター 副代表理事

委員 栗田 暢之 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事

委員 後藤 麻理子 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長

委員 諏訪 徹 日本大学 文理学部 社会福祉学科 教授

委員 永田 亮子 日本たばこ産業株式会社 執行役員

### 3.第 11 回助成概要と選考理由

---

助成番号	11-1
事業名	東日本大震災の内陸避難者を支える活動
団体名	いわてゆいっこ花巻
主な活動地域	岩手県花巻市

---

#### 【選考理由】

いわてゆいっこ花巻は、岩手県沿岸の釜石市などから内陸の花巻市に避難した人々を対象に、継続して生活支援を行ってきた市民活動団体である。

今回のプロジェクトでは、みなし仮設住宅に居住する単身者や要介護者のいる世帯への訪問活動、傾聴活動、子育て世帯のお茶会、専門機関への橋渡し、農園の提供、同郷人会、季節ごとの各種交流会、追悼集会など、多岐にわたる活動を行い、孤立やひきこもりの防止、健康維持を支援する。また、ゆいっこ花巻新聞を発行し、イベントや行政施策等の情報を毎月届けたり、個別の相談活動を行ったりすることで、避難者それぞれの自立に向けた方向性が決定できるよう支援することを目的としている。

今後、みなし仮設住宅への行政による支援期限が検討されるなど、内陸避難者の心身への負担はますます増加すると予測される中、いわてゆいっこ花巻がこれまで重ねてきた丁寧な情報提供や個別対応、交流や活動の場の継続が求められる。みなし仮設住宅から自立する家族を支援し、被災者と市民のコミュニティが創生されるよう期待したい。

---

助成番号	11-2
事業名	食の循環を通して心と体を元気にする地域支え合いプロジェクト
団体名	一般社団法人 ワタママスマイル
主な活動地域	宮城県石巻市

---

#### 【選考理由】

ワタママスマイルは、被災した住民を雇用し、石巻市渡波地区の仮設住宅等の住民を対象に、見守りを兼ねた配食サービスや、地元の海産物を食材とする食堂を運営してきた市民活動団体である。

今回のプロジェクトでは、食堂の近隣にある土地を整備して、渡波地区の仮設住宅や復興公営住宅の住民が、専門家の指導を受けながら、地元特産の野菜づくりを楽しむことができる市民農園を開設する。農園は住民が共同で作業する区画と個人に貸し出す区画をつくり、収穫した野菜の一部はお弁当や食堂の食材として活用する。

農園が、今後の生活に向けて不安を感じ、生きがいや居場所を必要としている仮設住宅、復興公営住宅、自主再建した住民の継続的な交流の場となり、食の循環を通して心と体を元気にする地域支え合いのコミュニティが生まれるよう期待したい。

助成番号	11-3
事業名	NPO・市民活動団体の活性化と協働推進のための情報発信事業
団体名	特定非営利活動法人いしのまき NPO センター
主な活動地域	宮城県石巻市

#### 【選考理由】

いしのまき NPO センターは、東日本大震災前から石巻市内の市民活動団体を支援してきた NPO 支援団体である。震災後は市民活動団体の取り組みを発信するポータルサイトを行政からの受託業務として運営し、また、昨年 11 月に市民活動団体の活性化を目的に設立され、68 団体が登録する石巻市 NPO 連絡会議の事務局を担っている。

今回のプロジェクトは、市民活動団体の情報発信プラットフォームを構築し、市民・行政・企業への周知を図り、また、活動のテーマ別・エリア別に集まる分科会を設置し、団体間の連携や行政・企業との協働を推進することで、市民活動団体の活性化と継続に寄与することを目的とする。具体には地元の新聞社と協働して NPO 情報誌を毎月発行し、また、市民活動情報の収集・発信力の強化とポータルサイトのリニューアルに取り組む。

震災から 5 年が経過し、市民が主導し、市民活動団体・行政・企業が連携して地域コミュニティの復興に取り組む基盤が構築されるよう期待したい。

助成番号	11-4
事業名	復興公営住宅相互と NPO の連携による新たな共助（well-being）の体制づくり
団体名	あすと長町コミュニティ構築を考える会
主な活動地域	宮城県仙台市

#### 【選考理由】

あすと長町コミュニティ構築を考える会は、仮設住宅におけるコミュニティ構築および復興公営住宅への移転に向けたコミュニティづくりに取り組んできた市民活動団体である。

今回のプロジェクトでは、仙台市太白区あすと長町地区内に 3 か所建設された復興公営住宅の自治組織づくりや集会所の運営の仕組みづくりをサポートする。また、多世代が交流するための場づくりや復興公営住宅の住民による地域マップづくりに取り組む。

仮設住宅から復興公営住宅への転居に伴い、高齢者や単身者世帯を中心に健康や孤立の問題が生じやすい状況の中で、あすと長町コミュニティ構築を考える会が、仮設住宅における取り組みで蓄積したノウハウを活かして、復興公営住宅の住民同士の助け合いなど新たなコミュニティづくりの仕組みが構築されるよう期待したい。

---

助成番号	11-5
事業名	住むことを禁じられた海辺のまちの縁側づくり
団体名	荒浜再生を願う会
主な活動地域	宮城県仙台市

---

**【選考理由】**

東日本大震災により、住環境の壊滅的な被害と186名の犠牲を伴い、地域全域が災害危険区域に指定された仙台市荒浜地区。荒浜再生を願う会は、震災前の海辺のまち独自の地域文化やコミュニティまでもが消滅しないよう、拠点となるロッジを建て、お昼のお月見会やおモイデツアーなどのイベントを実施したり、有識者を交えた公開討論会を重ねたりするなどして、移転した住民や活動に賛同するボランティアなどが気軽に立ち寄り、また将来のまちづくりが検討できる場づくりに取り組んできた。

今回のプロジェクトは、これらの取り組みをさらに深化させ、「ほぼ週おちゃっこ」や「ほぼ月壁新聞」など、ユニークな愛称で活動を定期化し、また食文化や住環境の再現などを通じて、地域の歴史や文化の継承を図ろうというものである。

災害危険区域の土地利用については、未だ不確定要素も大きいですが、住民本位・地域主体の原則のもと、多様なセクターの参加で議論を積み上げ、将来のコミュニティづくりにつながる有益な提案が生まれるよう期待したい。

---

助成番号	11-6
事業名	避難からの“次の暮らし”をつなぐ・支える応援プロジェクト
団体名	特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ
主な活動地域	県北地方(福島市等)、山形県米沢市、山形市等

---

**【選考理由】**

福島県においても、仮設住宅の入居期限といわれる2017年度に向けて、仮設住宅から復興公営住宅への転居や自宅再建など、“次の暮らし”への選択と移動が始まろうとしている。避難当初から積み上げられてきた仮設住宅のコミュニティが再び壊れ、新たな暮らしへの不安を抱える人たちは少なくない。とりわけ復興公営住宅へ入居する住民の半数以上が高齢であると想定されるため、移転前後のサポートは不可欠なものとなる。

市民公益活動パートナーズは、震災直後より相双地域から避難した住民の生活支援を継続しているNPO支援団体で、今回のプロジェクトは、浪江町などから桑折町や福島市などへ避難している人々への情報提供と、コミュニティの復興に取り組むNPOへのサポートの2つの事業が柱になっている。前者は次の暮らしの中での新たな住民同士のつながりづくりを支援し、後者はNPOの組織基盤と支援力の強化を図ろうとするものである。復興への新たなフェーズを迎える福島において、避難者の“次の暮らし”をつなぐ・支えるコミュニティづくりのモデルとなるよう期待したい。

助成番号	11-7
事業名	震災によって避難生活を送る子どもたちを支えるための教育・福祉支援とコミュニティづくり
団体名	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま
主な活動地域	福島県郡山市、三春町

#### 【選考理由】

ビーンズふくしまは、福島県内の不登校の子ども、ひきこもりの青年たちとその家族の支援活動として、震災前からフリースクール等を展開してきた市民活動団体である。被災者の支援活動では、2011年9月から県北地域及び県中地域において、仮設住宅の子どもたちの居場所確保を目的に、遊びや学習支援に取り組むとともに、県外自主避難親子の心のケア、帰還した親子の居場所づくりなどの事業を行ってきた。

今回のプロジェクトは、現在も仮設住宅やみなし仮設住宅で避難生活を送っている富岡町や川内村の子どもたちを対象に、郡山市と三春町の2か所を拠点に、遊びや学習支援の活動を、週2日ずつ通年で行うとともに、避難先の住民との交流や郷土文化を継承するための体験活動などを行う。

まだまだ先行きが不透明で今後の生活再建にむけた選択で親たちが不安を抱えている中、子どもたちの居場所や学習支援の活動を継続し、子ども・保護者の選択や願いを包摂した教育とコミュニティの再生につながるよう期待したい。

助成番号	11(継)-1
事業名	民間公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業
団体名	特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会
主な活動地域	宮城県石巻市

#### 【選考理由】

雄勝まちづくり協会は、津波により多くの居住地を失い、高台移転事業が進められている石巻市雄勝町で、民設民営の公民館「オーリンクハウス」を立ち上げ、各種のイベントや文化活動、コミュニティカフェを運営し、住民同士のつながりと自発的な活動の拠点づくりに取り組んできた市民活動団体である。

2年間の助成による取り組みで、ハード面の復興が遅れている雄勝において、オーリンクハウスは住民の貴重な集いの場として定着しつつあり、財源の柱となっているカフェのメニュー開発やサービスの工夫などにより、新たな来場者やリピーターも増加し、現在も自立のためのカフェ事業強化の努力が続けられていることが評価された。

3年目の助成となる今回のプロジェクトは、介護など特定のテーマや悩みを抱える住民が参加し、情報交換や関係づくりを行う場として、“小規模コミュニティカフェ”を企画する。

地域住民の自発的な参加を引き出すとともに、専門機関や団体も巻き込みながらプロジェクトを展開し、豊かなコミュニティの礎が形成されるよう期待したい。

---

助成番号	11(継)-2
事業名	帰村モデルとしての川内村地域再生事業
団体名	特定非営利活動法人 元気になろう福島
主な活動地域	福島県川内村

---

**【選考理由】**

元気になろう福島は、震災前から福島県内の地域活性化に取り組み、震災後は農業支援を通じた双葉郡の地域再生に取り組んでいる市民活動団体である。

1年目の助成では、避難している双葉郡の農家をコーディネートして、川内村に帰還した農家の農作業をサポートした。年間の活動を通して、避難先で土に触る機会が無かった双葉郡の農家にとっては農業に関わる機会として、農業を再開した川内村の農家には人手不足や再開の不安や悩みを話せる機会として、お互いの意欲を高め、ニーズを満たす結果を生み出した。

2年目の助成となる今回のプロジェクトでは、川内村の農家、双葉郡の農家のいずれも参加人数を増やし、事業規模を拡大して実施する。

このプロジェクトを通じて、農業に取り組む者同士が結び付き、支え合うコミュニティが広がり、双葉郡の農業と地域の再生につながるよう期待したい。

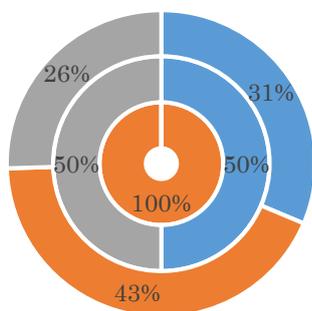
#### 4. 第11回助成応募概況(応募期間:2016年1月4日(月)～1月18日(月))

(表)

	新規助成	継続助成(2年目)	継続助成(3年目)
■応募件数	[合計] 51 件 [再応募] 18 件(40%)	[合計] 2 件 [再応募] 0 件(0%)	[合計] 2 件 [再応募] 0 件(0%)
■助成希望額	[合計] 2 億 2,860 万円 [平均] 448 万円 [最高] 500 万円 [最低] 273 万円	[合計] 785 万円 [平均] 393 万円 [最高] 400 万円 [最低] 385 万円	[合計] 570 万円 [平均] 285 万円 [最高] 290 万円 [最低] 280 万円
■活動地域 ※0内は割合	[岩手県] 16 件(31%) [宮城県] 22 件(43%) [福島県] 13 件(26%) [複数県] 0 件(0%)	[岩手県] 1 件(50%) [宮城県] 0 件(0%) [福島県] 1 件(50%) [複数県] 0 件(0%)	[岩手県] 0 件(0%) [宮城県] 2 件(100%) [福島県] 0 件(0%) [複数県] 0 件(0%)
■団体所在地 ※本部事務所 ※0内は割合	[岩手県] 12 件(24%) [宮城県] 18 件(35%) [福島県] 13 件(26%) [3県外] 8 件(15%)	[岩手県] 1 件(50%) [宮城県] 0 件(0%) [福島県] 1 件(50%) [3県外] 0 件(0%)	[岩手県] 0 件(0%) [宮城県] 1 件(50%) [福島県] 0 件(0%) [3県外] 1 件(50%)
■設立時期 ※0内は割合	[震災前] 24 件(47%) [震災後] 27 件(53%)	[震災前] 2 件(100%) [震災後] 0 件(0%)	[震災前] 1 件(50%) [震災後] 1 件(50%)
■法人格 ※0内は割合	[NPO] 32 件(63%) [一般社団] 6 件(12%) [その他] 2 件(4%) [法人格なし] 11 件(21%)	[NPO] 2 件(100%) [一般社団] 0 件(0%) [その他] 0 件(0%) [法人格なし] 0 件(0%)	[NPO] 2 件(100%) [一般社団] 0 件(0%) [その他] 0 件 [法人格なし] 0 件

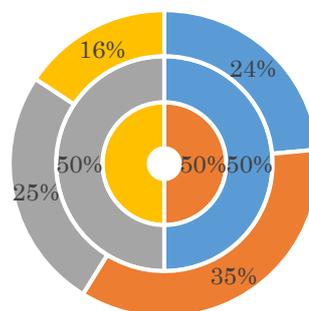
(グラフ) 一番外側の円＝新規助成／真ん中の円＝継続助成 2 年目／一番内側の円＝継続助成 3 年目

### 活動地域



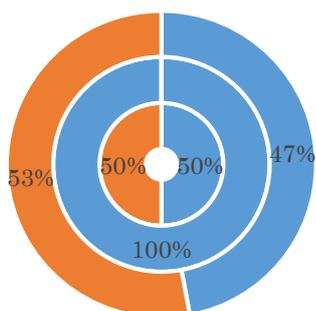
■ 岩手県 ■ 宮城県 ■ 福島県 ■ 複数県 ■ 3 県外

### 団体所在地



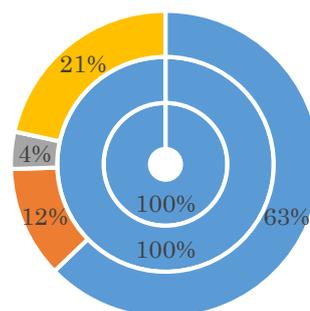
■ 岩手県 ■ 宮城県 ■ 福島県 ■ 3 県外

### 設立時期



■ 震災前 ■ 震災後

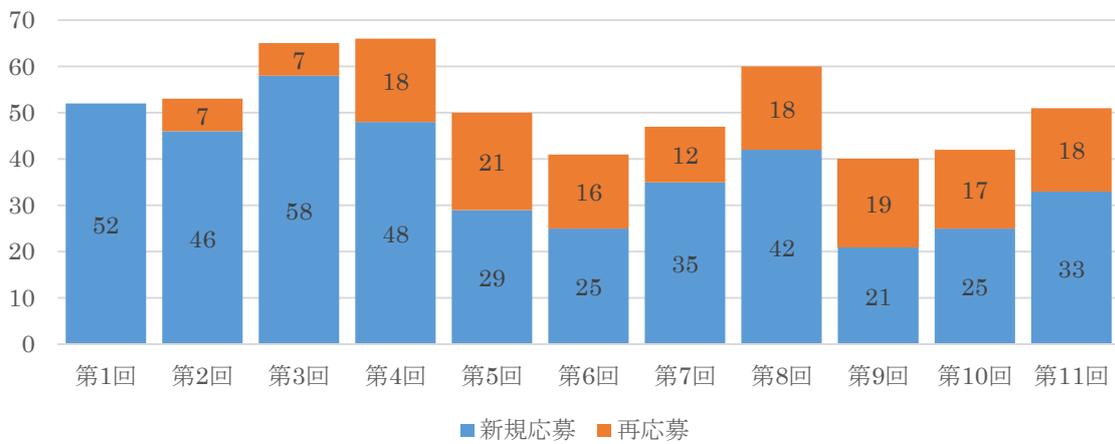
### 法人格



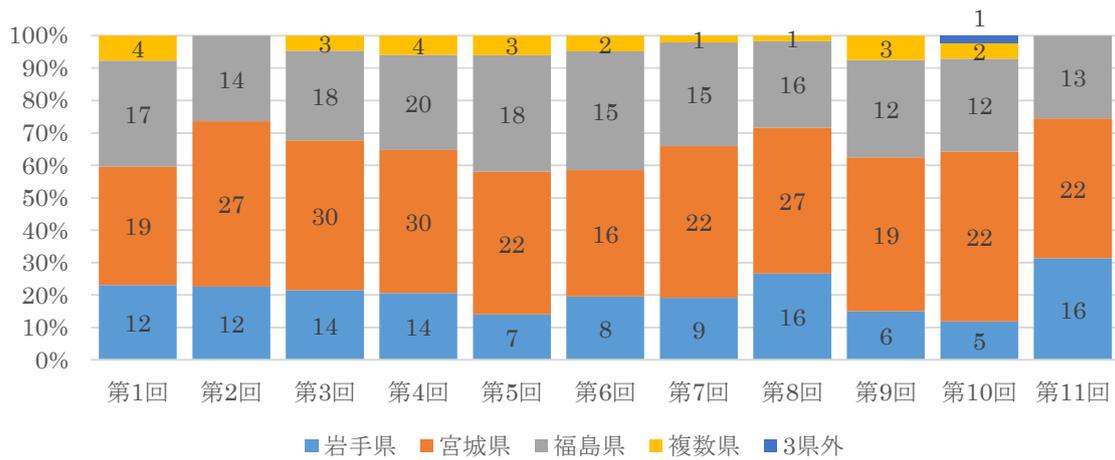
■ NPO ■ 一般社団 ■ その他 ■ 法人格なし

■過去助成回応募概況(第1回～第11回) ※新規助成のみ

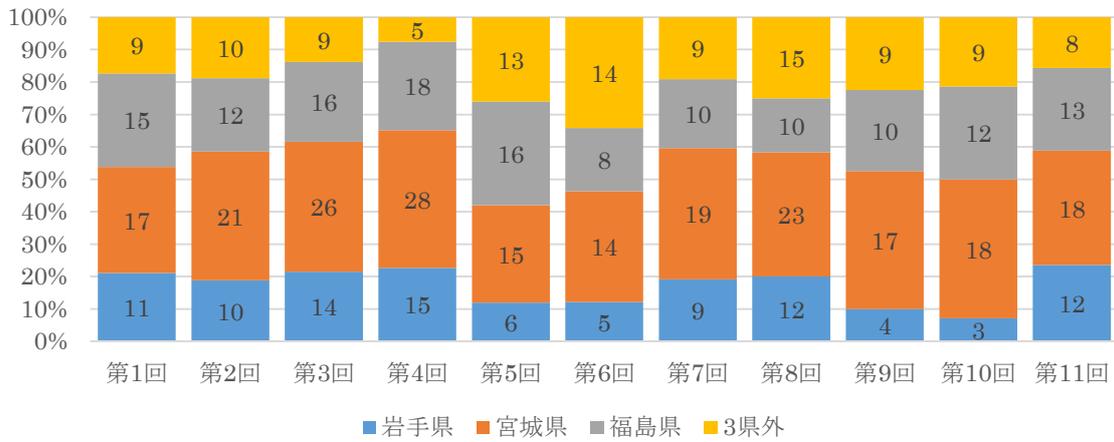
### 応募件数



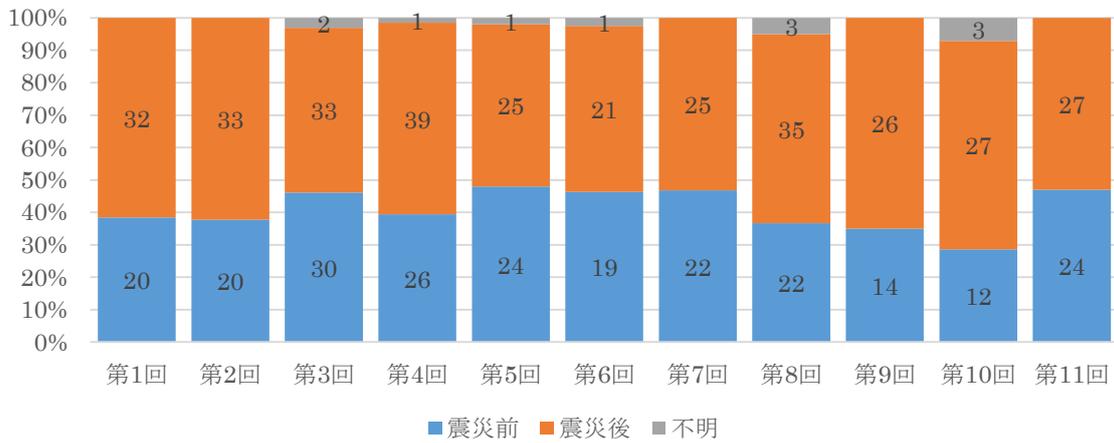
### 活動地域



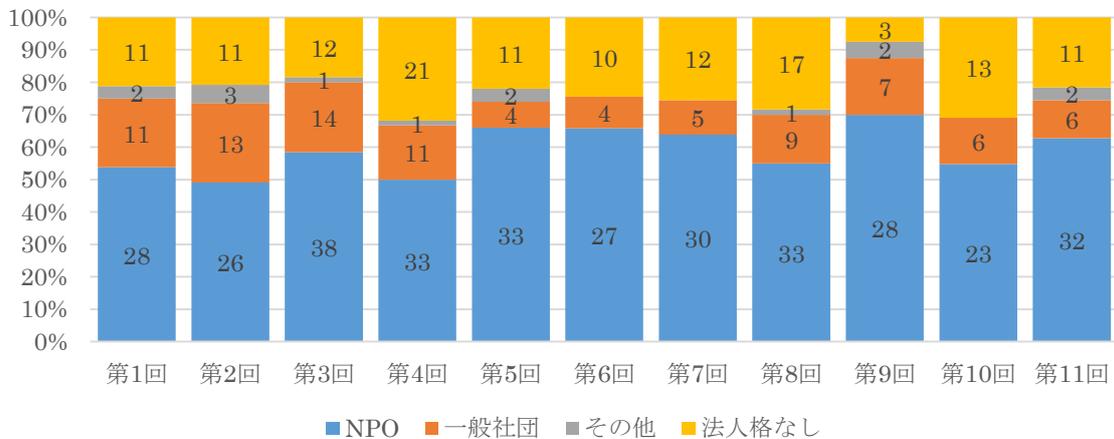
## 団体所在地



## 設立時期



## 法人格



## 5. 助成対象事業一覧(第1回～第11回)

助成件数 66 件 (新規 47 件、継続 19 件)

助成額合計 : 2 億 6,509 万 4 千円 (新規 1 億 9,869 万 4 千円、継続 6,640 万円)

### ◆岩手県 10 件 (新規助成 9 件、継続助成 1 件) (助成額合計 4,324 万円)

	事業名	団体名/代表者名	活動地域	助成額
第 2 回	水中清掃活動並びにその後の子供を対象としたスノーケル教室	特定非営利活動法人 ブルーサポートいわて 理事長 青木 亘	岩手県 大船渡市	312 万円
第 2 回	外部の若者との「交流」と「挑戦」から生まれる協働事業モデルの創出	特定非営利活動法人 SET 理事長・現地統括 三井 俊介	岩手県 陸前高田市	400 万円
第 3 回	東日本大震災文化芸術復興支援事業 希望の飛沫プロジェクト「岩手県三陸沿岸児童・生徒参加型創作ミュージカル公演」	特定非営利活動法人 劇団ゆう 理事長 菊田弟一	岩手県 大船渡市 洋野町	500 万円
第 4 回	岩手に根ざした「和グルメ」を全国発信し地域の産業創出	一般社団法人 SAVE IWATE 理事長 寺井 良夫	岩手県 盛岡市 野田村	483 万円
第 6 回	福祉有償運送事業 (障害者や要介護高齢者などの暮らしを支える生活支援)	特定非営利活動法人 愛ネット高田 代表理事 千葉 丑美	岩手県 陸前高田市	500 万円
第 7 回	入浴買い物バス運行による元気・絆復活	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 代表理事 廣田 純一	岩手県 田野畑村	444 万円
第 8 回	大槌町の若手世代対象:自分の町の魅力(再)発見事業	一般社団法人 おらが大槌夢広場 代表理事 白沢 和行	岩手県 大槌町	500 万円
第 8 回	被災地の人的資源と連携した自立的長期メンタルヘルス支援サービスの構築	認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて 理事長 鈴木 満	岩手県 大槌町	485 万円

第10回 継続	障害者や要介護高齢者等の暮らしを支える福祉無償運送事業	特定非営利活動法人 愛ネット高田 代表理事 岡本 幸子	岩手県 陸前高田市	400 万円
第11回	東日本大震災の内陸避難者を支える活動	いわてゆいっこ花巻 代表 大桐 啓三	岩手県 花巻市	300 万円

◆宮城県 30件（新規助成22件、継続助成8件）（助成額合計1億1,658万4千円）

	事業名	団体名／代表者名	活動地域	助成額
第1回	津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援	特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 代表理事 石本 めぐみ	宮城県 登米市	498 万円
第1回	在宅住民・仮設住宅住民の孤立防止と災害公営住宅入居者のコミュニティ形成	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山 博史	宮城県 気仙沼市	349 万円
第1回	子育てと就労・コミュニティを包括した事業モデルの創出	特定非営利活動法人 ピースジャム 理事長 佐藤 賢	宮城県 気仙沼市	499.4 万円
第2回	地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表理事 阿部 正孝	宮城県 気仙沼市	440 万円
第3回	南三陸自然史学舎（しぜんのまなびや）構想実現のための2プロジェクト推進	特定非営利活動法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田 喜久	宮城県 本吉郡 南三陸町	350 万円
第3回	私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業	雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨	宮城県 石巻市 雄勝町	360 万円
第3回	HANA 荘コミュニティ運営支援事業	特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター 理事長 松村 善行	宮城県 石巻市	300 万円
第4回	ボランティア・ツアーの継続促進と、発信地との相互交流（観光と物流）拡大支援事業	一般社団法人 南三陸復興まちづくり機構 代表理事 山内 正文	宮城県 南三陸町	451 万円
第4回	被災地のものづくりコミュニティの継続的な運営と発展のための組合的販促支援強化事業	特定非営利活動法人 応援のしっぽ 代表理事 広部 知森	岩手県 宮城県 福島県	471 万円
第5回	街角・Café&軽食 桜さくら／フリースペースららぽーと	特定非営利活動法人 夢みの里 代表理事 菅原桂子	宮城県 石巻市	340 万円
第5回	被災による子どもの貧困救済及び貧困連鎖予防事業	特定非営利活動法人 キッズドア 理事長 渡辺由美子	宮城県 仙台市	456 万円

第5回 継続	津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援第二期	特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 代表理事 石本めぐみ	宮城県 南三陸町	390 万円
第5回 継続	仮設住宅住民の心身の健康維持と災害公営住宅のコミュニティ形成	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山博史	宮城県 気仙沼市	283 万円
第6回	仙台市若林区東部農村地域復興プロジェクト	一般社団法人 ReRoots 代表理事 広瀬 剛史	宮城県 仙台市	460 万円
第6回 継続	地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表理事 阿部 正孝	宮城県 気仙沼市	400 万円
第7回	被災市民による地域コミュニティ維持・担い手育成並びに要援護住民支援の基盤づくりサポート事業	石巻仮設住宅自治連合推進会 会長 増田 敬	宮城県 石巻市	487 万円
第7回 継続	南三陸自然史学舎（しぜんしのまなびや）構想実現のための2プロジェクト推進	特定非営利活動法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田 喜久	宮城県 南三陸町	370 万円
第7回 継続	私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業	特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨	宮城県 石巻市	200 万円
第8回	長屋門で地域再生～古民家活用モデル構築～	くりはらツーリズムネットワーク 会長 小野寺 敬	宮城県 栗原市	470 万円
第9回	石巻市の地元住民による小中学校サポート活動を通じたコミュニティ形成事業	一般社団法人 プロジェクト結コンソーシアム 理事長 長尾 彰	宮城県 石巻市	490 万円
第9回	雄勝花物語 第5章「若者・お年寄り・女性の参加による故郷復興プロジェクト」	一般社団法人 雄勝花物語 代表理事 徳水 利枝	宮城県 石巻市	428 万円

第9回 継続	街角 Café 桜／フリースペース ららポート	特定非営利活動法人 夢みの里 理事長 菅原 桂子	宮城県 石巻市	340 万円
第9回 継続	被災による子供の貧困救済及 び貧困連鎖予防事業	特定非営利活動法人 キッズドア 理事長 渡辺 由美子	宮城県 仙台市	399 万円
第10回	石巻の復興公営住宅における アートを通じて多世代が交流 できる新しいコミュニティ作り	特定非営利活動法人 にじいろクレヨン 代表理事 柴田 滋紀	宮城県 石巻市	340 万円
第10回 継続	地域住民の生活支援および地 域コミュニティ形成の促進プ ロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表 前澤 由美	宮城県 気仙沼市	260 万円
第11回	食の循環を通して心と体を元 気にする地域支え合いプロジ ェクト	一般社団法人 ワタママスマイル 代表理事 菅野 芳春	宮城県 石巻市	425 万円
第11回	NPO・市民活動団体の活性化と 協働推進のための情報発信事 業	特定非営利活動法人 いしのまき NPO センター 代表理事 大河原 惇	宮城県 石巻市	300 万円
第11回	復興公営住宅相互と NPO の連 携による新たな共助 (well-being) の体制づくり	あすと長町コミュニティ構築を考え る会 代表 飯塚 正広	宮城県 仙台市	488 万円
第11回	住むことを禁じられた海辺の まちの縁側づくり	荒浜再生を願う会 代表 貴田 喜一	宮城県 仙台市	324 万円
第11回 継続	民間公民館の運営と地域コミ ュニティの活性化事業	特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨	宮城県 石巻市 雄勝町	290 万円

◆福島県 26件（新規助成17件、継続助成9件）（助成額合計1億527万円）

	事業名	団体名／代表者名	活動地域	助成額
第1回	双葉町役場いわき事務所との連携による双葉町が抱える課題への支援事業	特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポートセンター 理事長 舘 敬	福島県 いわき市	413 万円
第1回	障がい児の被災者家族の支援プロジェクト	特定非営利活動法人 ふよう土2100 理事長 里見 喜生	福島県 いわき市	499 万円
第2回	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一	福島県内	420 万円
第2回	ふくしま移住女性エンパワメントプロジェクト	福島移住女性支援ネットワーク 代表 佐藤 信行	福島県 福島市 白河市	350 万円
第3回	小高区が「新たな一歩」を踏み出すための、世代間まちづくりワークショップ・農業交流事業	特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター 代表理事 門馬 浩二	福島県 南相馬市	450 万円
第3回	福島の幼児の「外遊びデビュー」サポート	特定非営利活動法人 こどもの森ネットワーク 理事長 橋口 直幸	福島県 福島市 郡山市 猪苗代町	400 万円
第3回	障がい者施設へのリサイクル機器貸与による障がい者就労機会創出・国内資源循環促進事業	特定非営利活動法人 くるりんこ 理事長 荒川 健吉	福島県 郡山市	400 万円
第4回	いいたてミュージアム-までの未来へ記憶と物語プロジェクト-	いいたてまでの会 共同代表・幹事長 佐藤 彌右衛門	福島県 飯舘村 福島市	339 万円
第4回	福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育環境を提供する事業	特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太	福島県 郡山市	318 万円
第4回	福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業	特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 代表理事 岩城 幸男	福島県 いわき市	462 万円

第5回	ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」の構築	特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会 理事長 齊藤 昇	福島県 二本松市	470 万円
第5回 継続	障がい児の被災者家族の支援プロジェクト	特定非営利活動法人 ふよう土 2100 理事長 里見喜生	福島県 郡山市	385 万円
第6回	原発被災地域の仮設住民仮設及びみなし仮設)のための要支援者・要介護者急増対策事業	特定非営利活動法人 NPO ほうらい 理事長 小林 義明	福島県 福島市	482 万円
第6回 継続	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一	福島県 全域	400 万円
第7回	食と農の再生・うつくしまプロジェクト～持続可能な地域資産循環型の福島復興へ～	特定非営利活動法人 福島県有機農業ネットワーク 理事長 菅野 正寿	福島県 全域	440 万円
第7回	帰村モデルとしての川内村地域再生事業	特定非営利活動法人 元気になるろう福島 理事長 根本 二郎	福島県 川内村	392 万円
第7回 継続	小高区が「アクションを積み重ねていく」ための、世代間まちづくりワークショップと提案事業の協働実践	特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター 代表理事 門馬 浩二	福島県 南相馬市	400 万円
第8回 継続	いいたてミュージアムーまでの未来へ記憶と物語プロジェクトー2015	いいたてまでの会 共同代表 佐藤 彌右衛門	福島県 飯舘村 福島市	398 万円
第8回 継続	福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育を提供する事業	特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太	福島県 郡山市	323 万円
第8回 継続	福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業	認定特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会 代表理事 岩城 幸男	福島県 いわき市	317 万円
第9回 継続	ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」	特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会 理事長 齊藤 登	福島県 二本松市	400 万円

第10回	親子の健全な心と体の成長と地域の支援者を育成する「すくのび広場」の運営	すくのびくらぶ 代表 前澤 由美	福島県 いわき市	500 万円
第10回 継続	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一	福島県 県内	300 万円
第11回	避難からの“次の暮らし”をつなぐ・支える応援プロジェクト	特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ 代表理事 古山 郁	県北地方 (福島市等) 山形県 米沢市 山形市等	450 万円
第11回	震災によって避難生活を送る子どもたちを支えるための教育・福祉支援とコミュニティづくり	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま 理事長 若月 ちよ	福島県 郡山市 三春町	434 万円
第11回 継続	帰村モデルとしての川内村地域再生事業	特定非営利活動法人 元気になろう福島 理事長 根本 二郎	福島県 川内村	385 万円